



天高く子ども肥ゆる秋

9月は天候不順であったが、さすがに10月の声と共に朝夕はすっかり秋らしい風が吹き空は茜色のうろこ雲になっていた。

久しぶりにカラッと晴れた日、青空に向かって紙飛行機を飛ばすと白い雲の陰から現れた旅客機と一瞬重なって見えた。

「アッ、飛行機」と見つめていた子がいたが、他の子は上空を旋回する紙飛行機を競って追った。



今、保育園は運動会ごっここの真つ盛りいつまでも続くエンドレスリレー、ふたばよさこいソーラン、遊戯、ふたばっ子は疲れ知らず。運動会が終わると、秋は深まり自然が美しく変化し子ども達が大きく成長する実りの秋だ！

| 行事予定表 | | |
|-------|---|-----------------------|
| 2 | 月 | 町たんけん(牛久2小2年生来園) |
| 5 | 木 | 筑波山登山/サロン |
| 10 | 火 | ピヨピヨひろば |
| 12 | 木 | カレーの日 |
| 13 | 金 | 絵本の読み聞かせ(5歳児) |
| 17 | 火 | つつじが丘・ふたばランド交流会(5歳児) |
| 18 | 水 | おべんとうデー |
| 20 | 金 | 秋遊び交流会・牛久二小給食試食会(5歳児) |
| 21 | 土 | 運動会 |
| 23 | 月 | 交通安全教室(2歳児以上) |
| 25 | 水 | 誕生会 |
| 26 | 木 | 歯科検診 |
| 27 | 金 | 避難訓練 |

*今月は、秋の自然を感じに園外へ出掛けようと思います。また、沢山身体を動かして遊び、薄着で健康に過ごしたいですね。



今月の予定の中から

●町たんけん(2日)

・牛久二小の2年生が13名程生活科の「町たんけん」の一つとして保育園に来園します。

●筑波山登山(5日)

・年長児が筑波山のつつじが丘駐車場から女体の頂上まで自分の足で登る事に挑戦します。大変な箇所もありますが、子ども達の力を信じたいと思います。

●カレーの日(12日)

・今月も園全体でカレー作りに取り組みます。園内がカレーの美味しい匂いに包まれ、食欲が増し、いつもより沢山白米を炊きます。

●つつじが丘・ふたばランド交流会(17日)

・つつじが丘保育園、ふたばランド保育園、当園の5歳児が集まり、つつじが丘保育園で運動会ごっこを行います。

●牛久二小へ秋遊び交流会・給食試食会(20日)

・5歳児が、小学校で2年生と一緒に秋の自然物を使い遊び、その後は6年生と一緒に給食を食べます。就学への期待に繋がりますように。

●交通安全教室(23日)

・子ども達は、交通安全教室を通して命の大切さを学んでいます。是非、車に乗る際のシートベルトは必ず使用してください。

●誕生会(25日)

・毎月誕生会を行う事で、友だちをお祝いする気持ちが増え、芽生えてきているように感じます。嬉しいことですね！

●歯科検診(26日)

*当日欠席の場合も、受診時間に来園して頂き、全員の方の受診をお願い致します。詳細については「ほけんだより」をご確認ください。

☆お知らせ

☆非常勤で勤務していた寺田久美子先生が、一身上の都合により先月末に退職しました。☆ひかりぐみ担任の岡野由佳先生ですが、10月よりじぐみ担任となります。

☆運動会は10月21日(土) 9時~12時40分

場所・牛久運動公園メインアリーナ
テーマ「みんなが主役！」
笑顔あふれる ふたばっこパワー！

*運動会ごっこを楽しみ中で、運動会当日に向けて気持ちを高めていきたいと考えています。詳細は後日お知らせを配布致します。

*今年の保護者会競技は「でかばん競争」になりました。奮ってご参加ください！

黄昏に輝く

長雨にたたられ、何もかも腐ってしまいたいような夏だった。9月に入っても、雨が続きしたが、さすがに9月半ばに入ると空も高くなり、秋めいてきた。秋晴れの日、涼風と子ども達に誘われて散歩に出掛けた。たわなに実った稲穂が、黄金の頭を垂れ、稲刈りが忙しそうに動いていて、そこかしこに刈り取られた田が散在している。あぜ道を行くと秋あかねが宙を舞い、それを追って子ども達も両手をかざして一緒にクルクル舞う。遠く鎮守の森の銀杏の木が、秋の陽を浴びて黄を染め始めていた。と黄昏の景色をぼんやりと眺めていた。

誕生会の後、4歳になったばかりの子が、私のところに走って来て「僕、もう4歳だよ」と誇らしげに胸を張った。近くにいた5歳児が「なんだ、4歳か。僕は5歳だ」と鼻を高くした。4歳は余程くやしかったのだろう、自分の味方と、知っている限りの数を出して反撃した。「うちのお父さん

なんか、16歳なんだから」、5歳は「おや？何だ！」とげげんな顔をして、目を白黒させた。16歳とは、随分ませたお父さんだが、彼にとって16が認知できる最大の数だったのだろう。それを聞いていた6歳になった年長児が、「バカダナー、お父さんが16歳な訳ない。うちのお兄ちゃんだって14歳だ」と割り込んできた。彼等の一年は、とても長く、重いものなのだ。私達の一年に比べ、数十倍の長さや価値がある。決して、同じ一年ではないのだ。彼らにとって、1つ大きくなることは、重大事なのだ。

私は彼等のやり取りをとんでも面白く、黙って聞いていた。すると、急に矛先が私に向いた。「園長先生は、いくつになるの？」、私は、「じゃー、小石を拾ってきて」と言っただけで地面に小石を並べ始めた。「一つ、二つ、...四つ、君は4歳だから、ここまでは」「次は、もう一つで五つ」、そして「園長先生はまだまだ」とならべる。小石が足らなくなる。みんな小石を集めに走る。そのうち他の子どもも集まってきて、並んだ石を見て「ワースター、スター」と大歓声。60個に近づくとつれ、中央に座っていた6歳児が、急に黙り込んでしまった。そして、60個になった時、とても寂しそうに私を見上げ「もうすぐ、死んじゃうんだね」と言った。

あれから13年の月日が流れたが、まだしばらく生きています。気力・体力は落ちて、沢山失敗し、遠回りした豊かな経験値がある。黄昏の時ほど美しく輝くものだ。空元気で元気は元気。60、70鼻たれ小僧、人生これから、これから、さあ、楽しく愉快に生きましょう。(逝きましよう、ではない)

理事長 浅田 精利

